

参加費 無料  
申込み 不要  
同時 通訳付

どなたでもご参加いただけます

# 火山災害軽減のための方策に関する 国際ワークショップ2017 — 火山監視と防災 —

この百年、日本は大噴火を経験してこなかった。  
ひとたび大噴火が発生した場合には、民学官が一体となった防災対応が要求される。  
国内外の事例をもとに、我が国の火山監視・防災体制のあり方について議論する。

【第1部】9:50~  
日本の火山監視と防災の現状 — 国内外の事例から —

【第2部】14:30~  
パネルディスカッション — 日本の火山監視と防災体制の課題 —

11月22日(水)  
9:30~16:30  
(開場 9:00)

都道府県会館【東京】  
101大会議室(1階)  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3  
▶東京メトロ永田町駅5番出口より徒歩1分

お問い合わせ先

(国研)防災科学技術研究所 火山防災研究部門  
山梨県富士山科学研究所 広報・交流担当

TEL 029-863-7537 | FAX 029-851-5658 | E-mail [kazan-ws2017@bosai.go.jp](mailto:kazan-ws2017@bosai.go.jp)  
TEL 0555-72-6201 | FAX 0555-72-6204 | E-mail [kouryu@mfri.pref.yamanashi.jp](mailto:kouryu@mfri.pref.yamanashi.jp)

# 国際ワークショップ2017 プログラム

日時：2017年11月22日(水) 9:30-16:30 会場：都道府県会館 101 大会議室 司会進行：三輪学央（(国研)防災科学技術研究所） 内山 高（山梨県富士山科学研究所）	
9:30-9:50	開会の挨拶 林 春男（(国研)防災科学技術研究所 理事長） 趣旨説明 藤田英輔（(国研)防災科学技術研究所）
第1部 日本の火山監視と防災の現状 — 国内外の噴火事例から —	
9:50-10:20	講演1「火山監視とリスク評価の複雑な相互作用 — イタリアでの事例 —」 Augusto Neri（イタリア国立地球物理学火山学研究所）
10:20-10:50	講演2「ニュージーランドにおける火山監視と防災（仮）」 Gill Jolly（ニュージーランド GNSサイエンス）
10:50-11:00	休憩
11:00-11:30	講演3「日本の火山監視・防災における大学の観測及び研究者の役割 — 桜島及び口永良部島噴火 —」 井口正人（京都大学 防災研究所）
11:30-12:00	講演4「アメリカの火山防災から学ぶこと」 中田節也（東京大学 地震研究所）
12:00-13:20	昼休憩
13:20-13:50	講演5「イタリアにおける火山防災と危機管理（仮）」 Domenico Mangione（イタリア国家市民保護局）
13:50-14:20	講演6「日本の火山防災」 廣瀬昌由（内閣府（防災担当））
14:20-14:30	休憩
第2部 パネルディスカッション — 日本の火山監視と防災体制の課題 —	
14:30-16:20	コーディネーター 藤井敏嗣（山梨県富士山科学研究所 所長） パネリスト Augusto Neri（イタリア国立地球物理学火山学研究所） Gill Jolly（ニュージーランド GNSサイエンス） 廣瀬昌由（内閣府（防災担当）） 野村竜一（気象庁 地震火山部） 石原和弘（NPO 法人 火山防災推進機構） 他1名
16:20-16:30	閉会の挨拶 土橋 久（(国研)防災科学技術研究所 理事）

※講演タイトルは変更になる場合があります。

## お問い合わせ先